

廃棄物処理施設整備構想（案）と佐渡市一般廃棄物処理基本計画（案）についての市民説明会

- 日時：令和3年1月22日（金）午後7時～午後8時30分
- 会場：消防本部
- 参加者：10人

質問・意見		回答	
発言者	発言の要旨	回答者	回答の要旨
A氏	・生活排水処理人口が減少傾向にあるとのことだが、具体的にどのくらい減少しているのかお示しいただきたい。	市回答	・過去5年間の実績において、単独処理浄化槽人口とし尿汲み取り人口が減少しています。
	・単独処理浄化槽から下水道に切り替えた場合は、合併処理浄化槽人口となるか。	市回答	・下水道水洗化人口に含まれます。
	・平成27年度から令和元年度までで、単独処理浄化槽から下水道へ切り替えた人口が140余人、また、単独処理浄化槽人口が約3,000人減少したと読み取ればよいのか。 ・単独処理浄化槽から下水道へ切り替えた方がよいか。	市回答	・下水道の水洗化人口は、接続数が増加しても人口の自然減もあり、横ばいとなっています。 ・単独処理浄化槽は、生活雑排水が直接河川等へ流出することとなりますので、下水道への接続をお願いします。
	・昭和40年代前半には佐渡の人口が9万6～7千人の時代があり、現在は5万3千人位ですが、ごみ処理は今でも大変なのに、当時はどのようにやりくりしていたのか。	市回答	・昭和25年頃は12万5千人程の人口があり、当時と現在では生活環境も異なり、ごみの収集体制、リサイクル及び焼却施設が完備されていない状況下で、食品残渣の自己処理、周辺環境への投棄等が行われていました。一方、堆肥化などの資源化は、現在よりも幅広く行われていました。
・ある地区に自動車の不法投棄があった。不法投棄した人物を特定できたら報奨金などを支払うような取り組みをしたらどうか。	市回答	・放置自動車については、合併以前から大きな問題です。特に、世界遺産登録を見据え重点的に取り組んだ結果、一時期よりは放置自動車の撤去が進んでいます。また、自動車リサイクル法の施行により、適正な処理体制が整っています。しかし、まだまだ不十分なところもありますので、ご意見を踏まえ検討していきたいと思えます。	
B氏	・下水道への接続率向上に取り組むとあるが、どのような取り組みか。 ・接続に当たってどのような補助制度があるか。	市回答	・下水道法では、下水道が整備された地域においては、3年以内に接続することとされています。市では、これまで地域説明会や広報誌、市ホームページなどで接続のお願いをしてきました。今後も環境への配慮などの観点から、引き続き接続のお願いをさせていただきます。 ・支援策は、供用開始から3年以内に接続された方に1年間の使用料免除を実施していますが、3年を超えると支援が受けられません。
	・3年以降の人に対して、何か支援は無いのか。	市回答	・敷地内において接続が困難な場合に限り、自家用汚水ポンプ設備設置費の補助制度があります。
C氏	・令和元年度燃やすごみの平均組成のうち、生ごみはどのくらいあるか。	市回答	・生ごみ等は、厨芥類としてグラフに表し、燃やすごみの40.9%を占めています。
	・生ごみのリサイクルなどは考えているのか。	市回答	・ごみの減量化を図る上で、リサイクルは重要な取組と認識しています。食品ロスの削減などの取組を推進するとともに、計画にも盛り込みましたが、コンポストなどを配布し、3R活動推進モデル事業として取り組んでいきます。
D氏	・焼却残渣の処理について、セメント原料にするのは難しいが、埋立か焼成という形で進める案なのか。	市回答	・この段階では、セメント原料としては難しいという回答でしたが、県内の自治体ではセメント原料として資源化を図っているところもありますので、引き続き事業者との協議を行っています。現在のところは、結果として、焼成などが考えられる処理方法です。
	・焼成とは、燃やした熱を利用するなどの意味か。	市回答	・焼成とは、高温で焼却残渣を加熱し、砂状のものを生成することです。
	・溶融と焼成は、一緒のものなのか。	市回答	・焼却残渣の処理方法のうち、資源化は焼成、溶融、セメント原料の三つの方法があります。
	・焼却残渣の処理は、焼成がメインであって溶融はしないのか。	市回答	・溶融は、資源化するにも非常にコストがかかるため、焼成を中心に考え、処理方法の案としたいと考えています。リスク分散の観点も必要であることから、複数の受入先を確保して、安定的な資源化を図ることとしています。
	・ビューさわのお湯は、焼成してできたものか。	市回答	・ビューさわの熱源は、佐渡クリーンセンターの排熱を利用して温水を作っています。
E氏	・長寿命化というのは、全施設が対象か。	市回答	・佐渡クリーンセンターが対象です。